続・ふるさとこぼれ話

宇都宮から購入した屋台と山車

第34回

祖母井神社の祇園祭には、4町内から屋台や山車が繰り出される。それらは、いずれも他から購入したものであるが、そのうち上横町の屋台は宇都宮の伝馬町、西町の山車は、同大町、代町の山車は同上河原から購入したものである。

さて、購入などの経緯は、どのようなものであったろうか。

伝馬町から購入した上横町の屋台は、制作年代が明確ではない。しかし伝馬町に現存する屋台は、嘉永5年(1852年)以前に制作されている。このことから上横町の屋台は、嘉永5年以前に作られたものと推測され、伝馬町では新しく豪華な屋台を作ったので古い屋台を上横町に売却したものと思われる。

代町の山車は、上河原から明治43年に購入したもので、上河原では、この山車を明治29年に制作している。

一方、西町の山車は、大町より購入したもので、大町ではこの山車を明治23年に制作している。菊水祭では、明治30年代に入ると屋台や山車の繰り出しが行われなくなった。そこで上河原や大町では山車を持ちきれなくなり、代町および西町に売却したものと思われる。

ところで、宇都宮二荒山神社の菊水祭に奉納された屋台や山車は、戊辰(ぼしん)戦争と第二次世界大戦の2度にわたる戦災を受けて大半が焼失し、伝馬町と蓬莱町の屋台、本郷町の山車の計3台が現存するのみである。祖母井の屋台は、かつて宇都宮二荒山神社の菊水祭の面影を伝える貴重な屋台、山車である。

▶祖母井神社の祇園祭

問生涯学習課総合情報館推進係
【☎028(677)2525】

編集後記

うっとうしい梅雨の訪れ。でも、私は最近、しとしと雨の日がとても好きです。

屋根や傘に当たる雨音、雨に包まれた草木の新鮮さ、雨上がりの爽やかさとか。その中でも、やっぱり雨が降ると「ムリに出かけなくてもいいかな」と思えるところが一番いいのです。

そんな日は、あまり人と会わずに、部屋で好きな本を読みたい。そんな単純な望みでありながら、なかなか出来ないものでもあります。今の忙しい社会人も、きっとそうなのでしょうか…。

何はともあれ、今年はラニーニャ現象の影響で梅雨が早く明けるようですね。(K)

■編集　芳賀町広報広聴委員会
☎028(677)6032　✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
■発行　芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
■芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp
芳賀町の携帯サイトはコチラから➡

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK
環境保護印刷
この印刷物は、E3PAのゴールド基準に適合した地球環境に やさしい印刷方法で作成されています
E3PA：環境保護印刷推進協議会
http://www.e3pa.com

野鳥はともだち 76

ヨタカ

ヨタカ目ヨタカ科

Caprimulgus indicus
(インドのヤギの乳をしぼる鳥)

子どもたちが夏休みに入るころ、夜間にキョッキョッキョッと鳴きながら飛びまわり、昆虫を採餌するが、最近は鳴き声があまり聞かれなくなった。絶滅危惧種とされているのもうなずける。

和名では、夜鷹、蚊母鳥、怪鳥と書かれる。

体全体が枯葉模様のような灰褐色で黒、白、褐色の虫食い状の模様がある。雄は、目の下、喉、翼と尾羽の先に白い斑点があるが、雌は、尾羽に白い斑点がない。くちばしは小さいが、大きく開き、根元に剛毛があり、飛びながら、飛行する昆虫などを食べる。フクロウ目の鳥のように柔らかな羽毛をもち、羽音を立てずに飛行する。昼間は木の枝にうずくまるようにして留まる。

宮沢賢治著の『よだかの星』は、みにくいとタカにいじめられたヨタカが、大空をどんどん昇って焼き付いて星になった話。宮沢賢治は、童話作品の中に鳥類を55種(詩も含めると71種)も登場させている。